大分合同新聞
ワークシート

大分駅ビルに期待

年　　組　　名前

来春開業する大分市のJR大分駅ビルについて、約7割が「にぎわいが創出される」と期待していました。

①世代別の傾向はどのようになっていますか。

②商店街に回遊するための要望はどのようなものがありましたか。

③多くの人に中心市街地に来てもらうための方法を考えてみよう。

県の女性消費者調査

「駅ビルに期待」7割

「商店街回遊」は半数

県が女性消費者を対象に実施した中心市街地での消費動向調査で、来春開業する大分市のJR大分駅ビルについて、回答者の約7割が「にぎわいが創出される」と期待した。一方、同市中心部の既存の商店街も回遊する意向を示した人は半数にとどまった。駐車場の充実といったアクセス条件の向上に加え、品ぞろえの充実をはじめとする各店舗の魅力アップを求める声が多かった。

調査は昨年11月、県内に住む20歳以上の女性3千人に、各市町村の中心街での買い物の頻度や要望、大分駅ビルの開業効果について質問。1953人が回答した。駅ビル開業がもたらす大分市中心部のにぎわい創出効果について、17・4%が「大いにそう思う」、49・4%が「少しそう思う」と回答。年代別では若い世代ほど「そう思う」割合が高く、20代が76・5%と最多。一方、60歳以上は56・4%だった。

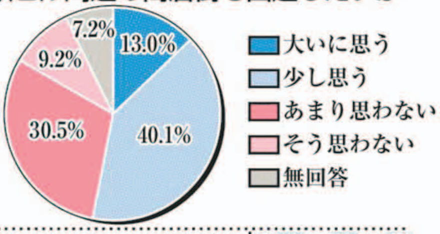
隣接する商店街も回遊したいかは「大いにしたい」「少ししたい」の合計が53・1%。50代以上は5割を切った。回遊する意向がない人に要望事項を尋ねたところ、「駐車場・駐輪場の完備」「オリジナル商品やデザインの良い商品を取りそろえる」「新製品・流行品をそろえる」—などと続いた。50代以上は共同セールやイベントを望む意見が20%を超えた。

市町村別に地元の中心街で買い物する頻度を尋ねたところ、「ほとんどない」が26・8%と最多。駐車・駐輪スペースや魅力ある店舗の不足を理由に挙げる声が多かった。九重町では日常の買い物が「不便」とした割合が40%に上った。

県商業・サービス業振興課は「若い世代は最新の品ぞろえ、中高年はセールなど、世代によって商店街に期待する内容に一定の傾向も見られる。駅ビル開業後の来年度もアンケートを実施し、にぎわい創出の課題を探りたい」としている。

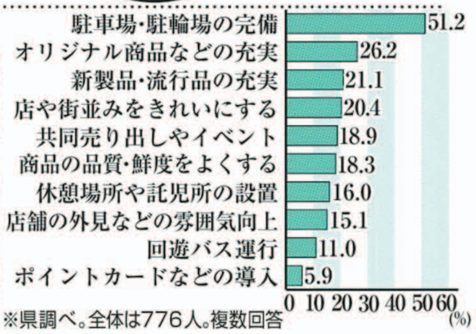
調査は約5年おきに実施。今回は大分駅ビルに関する質問を盛り込んだ。

大分駅ビル周辺の商店街も回遊したいか



※県調べ。全体は1953人

駅ビルから周辺商店街に回遊する条件



※県調べ。全体は776人。複数回答

（2014年５月15日朝刊５面）